

神戸大学における女性技術職員の地域貢献活動の報告

○松本 香^{a)}、嶋津 小百合^{b)}、大田 美奈子^{a)}、横手 美樹^{c)}

^{a)} 神戸大学大学院工学研究科、^{b)} 神戸大学 研究基盤センター、^{c)} 神戸大学 情報推進課

1. はじめに

本稿では、神戸大学の女性技術職員による地域貢献活動他について紹介する。

2. 青少年のための科学の祭典 ひょうご

兵庫県では 1996 年に神戸会場大会が初開催され、「青少年のための科学の祭典 ひょうご」は、2003 年から始まった。2024 年度は、兵庫県内の 5 つの会場（豊岡、丹波、東はりま、姫路、神戸）で開催され、子供たちに科学の楽しさを伝える場として親しまれている。子供たちが科学に対する興味や関心を高めるためのイベントである。各会場では、ブース、ステージ企画、ワークショップなどが行われる。

2. 1 工学研究科技術室での活動

神戸大学大学院工学研究科技術室では社会貢献・地域貢献活動の一環として 2010 年から毎年、青少年のための科学の祭典 神戸会場大会に出展している。また 2013 年からは技術室のメンバーを中心に、理学研究科や環境保全推進センターの技術職員等と連携して出展している。以下のテーマには、本学の女性技術職員も参加した。

- 神戸会場大会 2012 ワークショップ
金属を使った工作にチャレンジしよう
- 神戸会場大会 2013, 2015 ステージ
ねつを「見て」みよう
- 神戸会場大会 2022, 2024 ワークショップ
金メダルをつくろう～みんなが一等賞～

2. 2 部局連携技術職員チーム (CDRC) での活動

2023 年に、工学研究科だけでなく、様々な部局の有志で活動するために賛同者を集めて部局連携技術職員チームを編成した。青少年のための科学の祭典だけでなく、サンケイリビング新聞社主催のリビング子ども大学にも出展した。部局を超えた地域貢献活動の見通しを得た。



図1 東はりまでの実験中の様子

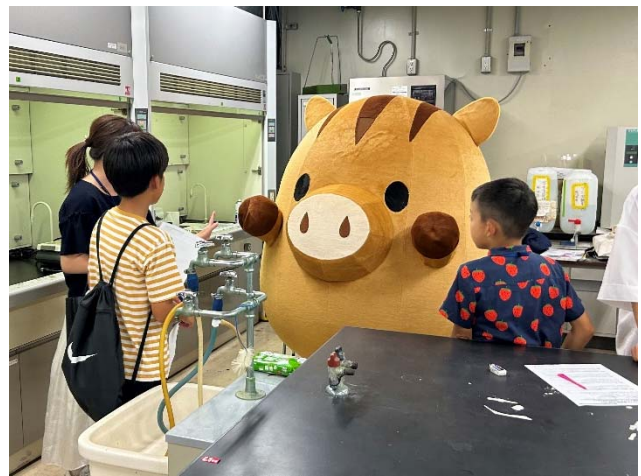


図2 神戸大学のマスコット神大うりぼー

- 東はりま会場大会 2023, 2024 ワークショップ
調味料でコインをきれいにしてみよう！
- リビング子ども大学 2024 ワークショップ
10 円硬貨で科学する

3. 女性技術職員ネットワーク

「親子で遊ぼう！女技の夏休み子どもサイエンス」は、大阪大学の部局横断型女性技術職員ネットワークが主催するイベントである。このイベントは、子供たちが科学に親しみ、楽しく学べる機会を提供

することを目的としている。各年度のテーマは以下の通りである。

□ 2021年度：分光シートをつかって光をわけてみ
てみよう！

□ 2022年度：ペーパークロマトグラフィー 色を
分けてみよう！

□ 2023年度：電池を作ってみよう

□ 2024年度：科学者になろう！～高吸水性樹脂
を使った実験

オンラインとオンサイト（対面）の両方で開催さ
れ、小学3年生から小学4年生を対象に実施された。
また、全国の女性技術職員がサポートし、親子で参
加できるようになっている。神戸大学には全学部局
がなく、これまで部局を超えた活動は行われてこな
かったが、これらイベントに参加することを通じて
他部局の技術職員との交流を深めた。また、他大学
の女性技術職員との交流を深めることができた。



図3 夏休みサイエンスイベント実験中の様子



図4 大阪大学のマスコットワニ博士

4. KUAJ@工学研究科建築学専攻

神戸大学建築設計教育作品集 KUAJ は、神戸大学
大学院工学印研究科建築学専攻・工学部建築学科で
の建築設計教育の成果をまとめた記録紙である。大
学4年間の集大成である卒業設計や、そこから更に
2年間学びを重ねた成果である修士設計、それらに
至るまでに入学時から取り組む様々な建築設計関
連演習科目の主な学生作品を掲載している。

神戸大学の建築設計に関する教育・研究・実践成
果の記録とその発信を目的として年1回、教員、技
術職員、学生が協力して発行している。

5. 国際交流ワークショップ@工学研究科建築学専攻

神戸大学と天津大学は、1980年に学術交流に関す
る覚書を締結し、2014年に覚書を更新した。2014年
度に天津大学の方々が来神して以降、毎年開催場所
を交互にして交流を継続している。コロナ禍で2020
年度から3年間交流が中断していましたが、ようやく
2023年に交流を再開できた。

本事業は、建築・都市デザインに関するワークシ
ョップと合同設計展という2つで構成される。

ワークショップは、両大学の学生が一緒のグルー
プで調査・分析を行ない、課題敷地の将来像を提案
するものである。2023年度の課題敷地は神戸市須磨
区南部の既成市街地で、7/9～13の5日間という短
期間に、3グループが課題に取り組んだ。

設計展では、両大学の優秀作品とワークショップ
の成果品の展示と、ワークショップの最終講評会を
行った。

6. まとめ

地域貢献活動を行い、地域の子どもたちにサイエ
ンスに触れてもらう機会を作ることを目的とし、活
動してきた。女性技術職員ネットワークへ参加し、
部局や大学を超えた交流を行うことができた。

KUAJ や国際交流ワークショップの展覧会で学生
の取り組みの情報発信を行い地域の方々に知って
もらう機会をつくっている。

謝辞

大阪大学部局横断型女性技術職員ネットワークの皆様の
温かいご支援とご指導により、貴重な子供向けイベントに参
加させていただきました。興味深い実験内容や親しみやすい
雰囲気を提供していただき、心より感謝申し上げます。